# 特別国民体育大会ソフトテニス競技北海道ブロック予選会
兼
# 北海道体育大会（少年の部：ダブルス）
## 開　催　要　項

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 日　　時 | 2023年8月10日（木）～12日（土）　受付終了８時30分　受付終了後開会式<br>★予備日　8月13日（日） |
| 2 | 会　　場 | 北見市東陵運動公園テニスコート<br>北見市東陵町２７－１　東陵公園内　　℡.0157-33-1842 |
| 3 | 主　　催 | 公益財団法人 日本スポーツ協会　　公益財団法人 北海道スポーツ協会 |
| 4 | 主　　管 | 北海道ソフトテニス連盟（強化委員会）、北海道ソフトテニス連盟高校部<br>北見ソフトテニス連盟 |
| 5 | 後　　援 | スポーツ庁・北海道 |
| 6 | 種　　目 | 少年男子・少年女子　ダブルス |
| 7 | 大会使用球 | ケンコーボール |
| 8 | 競技方法 | （１）別添『2023年度国民体育大会道予選会実施要領』及び『国民体育大会北海道代表選考規程』に基づき実施する。<br>（２）７ゲームマッチ<br>（３）ルール等は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟（以下、日連という）ソフトテニスハンドブックによる。 |
| 9 | 参加資格 | （１）平成17年４月２日以降平成21年４月１日以前に生まれた者<br>（２）日本国籍を有する者とし、本ブロック予選会への出場資格を得た者 ただし、日本国籍を有しない者は、学校教育法第１条に定める学校に、申込時、１年以上継続して在籍する生徒であれば良い<br>（３）居住地を示す現住所が北海道内である者、又は勤務地が北海道内である者、又は学校教育法第１条に規定する学校に在籍している場合には、 学校の所在地が北海道内にある者<br>（４）国民体育大会本選への出場意思があり、審判ができる者<br>（５）平成20年４月２日～平成21年４月１日生まれ（中学３年生）の者は20ペア出場できる（道連中学部が選考し、道連高校部に申込む）<br>★参加に際してはベンチ入り指導者等、高校の適用ルールを把握して守ること。 |
| 10 | 申込期限 | 2023年7月18日（火） |
| 11 | 参　加　料 | １ペア7,500円(道連大会参加料2,500円＋日体協負担金5,000円※下記参照)<br>★上記参加料には、１名あたりの日体協参加者負担金1,500円及び日体協傷害補償制度負担金1,000円の合計2,500円を含みます。(ペアで合計5,000円) |
| 12 | 参加割当 | （１）各支部には原則として、少年男・女別に会員登録20名につき１組の割合で参加数を割り当てる。開催支部については男女各４ペアを加える。<br>（２）別紙『指定シードペア』については地区予選を免除するとともに、前述の各支部割当の枠外とする。 |
| ⑬ | 申込方法 | 日本連盟、新会員登録システム(メニュー画面の支部大会申込み画面)より申込むこと。参加料もシステムで行い、期限までに入金すること。<br>注意：同一団体から複数の選手が申込みの場合は、団体(チーム)毎に取りまとめのうえ、選手を入力すること。<br>≪参加申込方法≫<br>・日本連盟、会員登録新システム(イベント検索画面)より期限までに申し込むこと。<br>≪参加費・加算金支払方法≫<br>・日本連盟、会員登録新システムによる申込の場合は、選択した支払方法により期限までにお支払いください。<br><u>※システム申し込み上の注意：追加情報Ａ～Ｄの記載について。（必須）</u><br>①Ａ欄に必ず以下のように記入。<br>・番手順、後衛前衛順に１Ａ１Ｂ、２Ａ２Ｂ…と書き込んでください。<br>②Ｂ蘭に他校の選手と組む場合は必ず備考欄に以下のように記入。<br>・前衛(または後衛)、〇〇クラブの△△とペア<br>・申し込みは、ペア校それぞれが必ず行い、情報を必ず記入すること。<br>③Ｃ、Ｄ欄は空欄 |

| | | |
|---|---|---|
| 14 | 参加選手留意事項<br>参加選手留意事項<br>つづき | （１）所定の時刻までに受付を完了し、開会式には、必ず出席すること。<br>（２）日連指定のゼッケンを着用し、四隅を止めること。<br>（３）ラケット（公認マーク添付）、シューズ、ユニフォームは、日連が公認したメーカーの製品を使用（着用）し、当該年度の日連の「ユニフォーム等の着用基準」を遵守すること。<br>（４）日連会員登録証（登録会員）、公認審判員ワッペン及びイエローカードを携行し、審判を担当するときは、原則ワッペンを左胸に着用すること。<br>（５）ベンチ入り指導者もテニスの服装とする。<br>（６）引率責任者は当該校の教員とする。ベンチ入り指導者は学校長の認めた教職員とし、２名まで認める。出場ペア数が１ペアの場合は、１名とする。指定シードペアについては、強化委員会スタッフがベンチ入りすることができる。なお、ベンチ入りが可能なのは、１次予選までとし、それ以降のマッ チでは、全ての指導者を対象に一切認めないこととする。<br>（７）優勝者は必ず「持ち回り優勝杯」を持ち帰り、次年度の大会時に整備のうえ、責任を持って当該校の選手が返還すること。<br>（８）荒天の場等合の大会の取り扱いについては、当日会場で、受付時刻までに発表する。<br>（９）入賞者の写真について、北海道ソフトテニス連盟のホームページ掲載及び広報誌のためだけに使用させていただきます。なお、写真の掲載について不都合がある場合などは、お手数ですが広報担当者まで個別に連絡願います。<br>広報 IT 委員会　担当：笠原　mail：kasa2316@yahoo.co.jp<br>(10) 試合については、YouTube 等で配信することがあります。その旨を、参加校は参加者に周知していただき、何か支障がある場合は、各支部の道専門委員に申し出てください。<br>(11) 感染防止留意するようご協力をお願いします。<br>★変更が生じた際は、専門委員や高体連ソフトテニス専門部ホームページにより参加校へ連絡する。 |

この事業は、競輪の補助を受けて実施しています。

**競輪の補助事業**

## ユニフォーム等の着用基準について

令和元年６月１０日 改訂

ソフトテニス競技者は競技会において、マッチ中は本連盟の公認するメーカーのユニフォームおよびシューズを着用するものとする。ただし、大会主催者が認めた場合にはこの限りではない。

１．　ユニフォーム

男子の場合、ゲームシャツと裾が膝より上のパンツ、女子の場合、ワンピースまたはゲームシャツと裾が膝より上のパンツ、スコートとする。

※Ｔシャツ、ジーンズはユニフォームとして着用できない。

２．　シューズ

テニスコートを傷つけないテニスシューズとする。

３．　その他

マッチ中に使用する物品については、本連盟が認める下記の範囲を超えて広告とみなされる企業名、商標等および所属名を表示してはならない。

（１）製造メーカー

企業名、商標のロゴ等は２０㎠以内のものを、各製品それぞれ２箇所以内の表示とする。
ただし、シューズについては箇所の制限をしない。

（２）ユニフォーム広告等

①スポンサー広告

スポンサーの企業名、商標のロゴ等の広告を表示する場合は１広告につき４０㎠以内とする。

②登録団体名

団体名（ロゴ・校章含む）の表示については、シャツ（ワンピース含む）が１表示１３０㎠以内、パンツ・スコート等は４０㎠以内とする。

※（２）については国民体育大会を除く。

※（２）の貼付等により（１）を覆い隠してはいけない。

※（２）について大会スポンサーはこの限りではない。
《ウェアに関する特例》
（１）オーバーウエア及び長袖スポーツシャツ、セーター等の着用については、大会主催者が認める場合のみ着用可能とするが、ゼッケンは最上衣服に貼付すること。
（２）アンダーウエア（長袖を含む）及びスパッツの着用については、単色の製品を原則とする。

## 2023 年度　特別国民体育大会（鹿児島県開催）少年男女北海道予選会実施要領

北海道ソフトテニス連盟強化委員会

**１．** 開催日時

| 種別・会場 | 試合 | 受付・開始時間 |
|---|---|---|
| ダブルス<br>(北見市東陵運動公園テニスコート) | １　次　予　選 | ８月10日(木) 午前８時３０分受付終了、９時試合開始 |
| | ２　次　予　選 | ８月11日（金）午前８時３０分受付終了、９時試合開始 |
| | 最　終　予　選 | ８月12日（土）午前８時３０分受付終了、９時試合開始 |
| シングルス<br>（滝川市テニスコート） | １・２次 予 選 | ６月24日（土）午前８時３０分受付終了、９時試合開始 |
| | 最　終　予　選 | ６月25日（日）午前８時３０分受付終了、９時試合開始 |

**２．** 選考方法

（１）ダブルス

「指定シードペア（代表候補選手）」は、地区予選を免除。（各支部割当て枠外とする）
該当するペアの選手変更は一切認めない。ただし、上記権利取得後に地区予選に出場した場合は（ペア変更を含む）は、権利を消滅する。中学３年生は、強化委員会推薦選手を除き、道予選会の１次予選（初日）から２０ペアに限り出場を認める。

●１次予選（初日）
・トーナメント戦又はリーグ戦により４ペアを選出する。

●２次予選（２日目）
・上記４ペアと指定シードペア（代表候補選手）８ペアを、Ａ・Ｂブロック各６ペアに分け、総当りリーグ戦（１回）により、Ａ・Ｂブロック各上位２ペアを最終リーグに進出させる。

●最終予選（３日目）
・上記４ペア（監督推薦ペアがある場合は５ペア）により、総当り最終リーグ戦（１回）を行い、トータルポイントで上位のペアから順に代表ペアとして内定する。

（２）シングルス

シングルスは、競技者育成プログラムと連動し、参加基準を設けて以下の通り実施する。

●１次予選（初日）
・U17step2該当選手（中学3年生含む）及びU20step2該当選手（高校3年生対象）を対象としてトーナメント戦又はリーグ戦により上位２名を選出する。

●２次予選（初日）
・１次予選上位２名にハイスクールジャパンカップ南北予選（シングルス）優勝及び北海道新人戦（シングルス）ベスト４を加えた最大８名を２ブロックに分け、総当りリーグ戦（１回）により、各ブロック上位２名を最終リーグに進出させる。なお、１次予選選手が重複した場合、強化委員会より補充選手を推薦する。

●最終予選（２日目）
・２次予選上位４名により、総当り最終決定リーグ戦（１次リーグの結果を生かして実施）を行い、トータルポイントで上位の者から順位を決定する。なお、ダブルスの選考を優先とするため、この時点ではシングルスの内定候補者として位置づけ、ダブルスの選手選考が確定した後にシングルスの代表選手を確定させる。

■注意事項

１．ダブルス及びシングルスで内定となった選手が辞退をする場合は、それぞれの予選会で次点となったペア（ダブルスの場合）又は選手（シングルスの場合）を繰り上げて内定とする。
２．代表となる選手は、監督の指示により、ダブルス、シングルスのいずれかにも出場することに承諾しなければならない。（代表選手は、事前に承諾書の提出が必要となる。）
３．ベンチ入り指導者について　①シングルスでは認めない。②ダブルスでは１次予選は認めるが、それ以降は認めない。
４．参加数及び当日の天候等、特別な事情が生じた場合、上記の試合方法を変更することがある。

# 「国民体育大会北海道代表選考規程」

１．少年男女、成年男女の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の承認を経て、理事会で審議・決定する。

２．代表選手の選考は、以下に示した基準（注①）に該当したペア（同一ペアに限る）を「国体代表内定ペア（１ペア）」とし、予選会を免除する。

　なお、対象が２ペア（ダブルス）以上となった場合は、国体代表選考委員会で協議した後、道連理事会で最終審議・決定を行う。※少年のシングルスについては、別に定める。

３．上記２以外の代表選手選考会は、「国体道予選会実施要領」に基づき、大会要項に定めるペア数（シングルスは選手）を選考する。

　なお、最終リーグの順位は「ソフトテニスハンドブック大会運営規則第３章競技大会第１０条」により決定する。

４．代表選手５名の他に補欠選手を各種目１名に限り置くことができるものとする。補欠選手の選考基準は、以下に示す注③の通りとし、強化委員会の承認を得て道連理事会で審議・決定する。

５．国体代表選考委員会は、上記により選出された選手のほか、強化委員会から推薦された監督・コーチ・補欠選手の選考について審議する。また、選手（補欠含む）及び監督・コーチに欠員が生じた場合には、速やかに強化委員会と協議し、補充の選考をしなければならない。

６．上記による選考結果は、国体道予選後の道連理事会で正式に発表する。

７．監督・コーチ・選手（補欠含む）は種目を問わずに一致団結し、常に北海道代表としての自覚と品位を保ち、競技力の向上に努めなければならない。

　なお、これらに反する行為があった者、または、そのような行為を看過した者は、国体代表選考委員会の審議により、北海道代表の資格を失うことがある。

８．国体代表選考委員会は、必要に応じて理事長が招集する。なお、委員は次のとおりとするが、審議の際には、会長（代理又は委任可）、副会長（２名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む２名以上）の出席を要す。

　※国体代表選考委員の該当者：会長、副会長、理事長、副理事長

注①：少年男女における「国体代表内定ペア・選手」

| ダブルス（同一ペアに限る） | シングルス |
|---|---|
| ○当年度全日本高校選手権　上位８ペア<br>○当年度ハイスクールジャパンカップ　上位２ペア | ○当年度ハイスクールジャパンカップ<br>（シングルス）　上位４名<br>○全日本シングルス選手権　上位８名<br>ただし、ダブルスを優先として代表選手を決定するため、上記に該当する選手は、内定候補として、シングルス予選会を免除し、シングル予選会の１位以上の順位とする。 |

注①：成年男女における「国体代表内定ペア・選手」

| ダブルス（同一ペアに限る） | シングルス |
|---|---|
| ○前年度東・西日本選手権（一般）　上位８ペア<br>○前年度全日本学生選手権　上位４ペア<br>○前年度全日本社会人選手権（一般）　上位８ペア<br>○前年度全日本選手権　上位16ペア | なし |

注②：少年男女における「指定シードペア・選手（２次予選）」

| ダブルス | シングルス |
|---|---|
| ○代表候補選手　男女各16名<br>※北海道高校新人戦、北海道高校インドア大会、北海道高校選手権等及び中学の各種大会結果も考慮し、高校部の推薦に基づき、強化委員会が最終的に承認し、指定シードペアを選出する。 | ○当年度ハイスクールジャパンカップ南北予選会<br>（シングルス）　各優勝者<br>○高校部強化委員推薦　４名以内<br>○前年度北海道高校新人戦（シングルス）　ベスト４ |

※少年男女の監督が予選会の前に確定している場合には、男女ダブルス１ペア、シングルス１名に限り、監督推薦として最終リーグ（特別シード）から出場させることができる。この場合も強化委員会の承認を必要とする。

注③：成年男女における「指定シードペア・選手（最終予選）」

| ダブルス（同一ペアに限る） | | シングルス | |
|---|---|---|---|
| ○当年度北海道春季選手権（一般） | 優　勝ペア | ○当年度北海道シングルス選手権 | 上位２名 |
| ○前年度北海道選手権（一般） | 上位２ペア | ○当年度全日本シングルス選手権 | 上位16名 |
| ○前年度東・西日本選手権（一般） | 上位16ペア | ○当年度全日本学生シングルス選手権 | 上位８名 |
| ○前年度全日本学生選手権 | 上位８ペア | | |
| ○前年度全日本社会人選手権（一般） | 上位16ペア | | |
| ○前年度全日本選手権（一般） | 上位32ペア | | |

注④：補欠選手の選考基準

| 少年男女 | 成年男女 |
|---|---|
| ダブルス及びシングルス予選会における次点選手から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。 | ダブルス及びシングルス予選会における次点選手及び当年度の全日本シングルス選手権、北海道春季選手権、北海道選手権、東日本選手権、全日本学生選手権で上位入賞した選手の中から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。 |

■改正内容

○平成12年1月22日理事会：補欠制について

補欠選手を認めず、選手変更を要する非常事態の場合出発前は国体代表選考委員会で、出発後は選手団の総監督に委ねることとした。

○平成14年5月25日理事会：国体代表選考委員会について

委員については、会長、副会長、理事長、副理事長とし、審議の際は、会長（代理含む）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要することとした。

○平成18年6月10日理事会：国体代表内定組の取り扱いについて

国体代表内定基準を作り、その対象組が複数生じた場合の取り扱いを明記した。

○平成26年3月1日理事会：監督・コーチの決定について

国体の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の了承を経て、理事会で審議・決定することとした。

○平成27年3月7日理事会：補欠選手の選考及びシングルスの導入に伴う変更

シングルスの導入に伴い代表選手が５名（ダブルス４名、シングルス１名）になることから怪我による選手変更や練習パートナーなどの問題に対応出来るように補欠選手を１名置くことにしたほか、シングルスの選考に関わる事項を明記した。